

# 魅力あふれる町づくり ～グリーン・ツーリズムで愛媛を元気に活性化～

〈執筆者〉

愛媛大学法文学部総合政策学科2回生

(愛南町グリーン・ツーリズム応援サポーター)

藤堂 奈菜 (代表), 堂本真奈美, 松友いずみ, 村上 朝子

〈指導者〉

和田 寿博 (愛媛大学准教授・法文学部総合政策学科)

## 1. はじめに

地域活性化の手段としてグリーン・ツーリズムが注目を集めている。グリーン・ツーリズムとは、「都市住民が農村地域などを訪れ、農林漁業体験や地元の人々との交流を楽しみながら、その地域の自然や文化に触れる余暇活動」のことである。愛媛県内では、過疎化や高齢化、農林地の荒廃や地域間格差などが進んでいる。愛南町ではこのような現状を打破し、地域の活性化を図り、愛媛に元気と活力を生み出すための取り組みが進められている。「ニッポンに愛南があってよかった!」を合言葉に、海と山に囲まれた豊かな自然を生かしてグリーン・ツーリズム活動に盛んに取り組んでいるのである。その活動の一環として、2007年4月に7戸の「農林漁家体験民宿」が開業した。私たちは、愛南町での取り組みについて実際に肌で感じるべく、今年8月に農家民宿での宿泊を体験した。本論文では、この体験を通じて私たちが実感した愛南町の素晴らしさと、グリーン・ツーリズム活動の現状などを述べたい。

## 2. 愛南町に帰ってこうわい

南は太平洋、西は豊後水道に面した愛南町。南宇和郡の北部には四国山脈から分岐した篠山支脈があり、山里には棚田の風景も広がる。私たち中予地域在住の者が愛南町で目にした風景は、とて

も新鮮で魅力的、異国的な印象だった。このような豊かな自然の中で、愛南町では独自の景観や郷土料理が生まれ、人が温かく、「宝」になっている。

私たちが感動したことの第1は、ふるまわれた食事の米や野菜、魚など、すべての食材に愛南産のものが使われていたことである。白く透き通った米、新鮮なカツオ、色とりどりの緋扇貝、深い甘みのかぼちゃー。すべてが本当に美味しく、私たちは満腹になるまで頂いた。さらに、それらの料理を引き立てる“つまもの”までもが、民宿の庭先や里山などで収穫されたものであった。この恵まれた食材は、自然に囲まれた愛南町ならではのものであり、大きな魅力、「宝」なのである。

第2に、体験を通して強く心に残ったのは人の温かさである。私たちを快く迎え入れてくれた地域の人々の姿からは、愛南町を心から愛している気持ちが伝わってきた。また、“訪れた人に愛南町を好きになってもらいたい”、“愛南町を盛り上げていきたい”という熱い気持ちを感じる事ができた。愛南町を大切に思う気持ちには言葉は要らない。その風景を見れば十分なことだ。しかし、地域の厳しい事情が広がる中で、何とかしたいという思いもまた強くなっていた。人の魅力もまた「宝」なのである。

ところで、農家民宿を営むということは簡単なことではない。宿泊者のための部屋や食事も必要であり、自分たちの生活が制約される場合も出て

くる。施設条件、経営問題などの理由により、愛南町を愛する気持ちだけでは民宿の開業は難しい。こうした問題を克服するために、愛南町では多くの団体が活躍している。例として、グリーン・ツーリズム活動全体に関わる“愛南農業指導班”や、柑橘栽培農家を中心とする“オレンジバンク愛南”などが挙げられる。また、愛南町のPR活動や女性の視点を生かした活動、さらにはグリーン・ツーリズム新規実践者の育成など、多くの人がそれぞれの関心や得意分野を生かし、自分なりの方法でグリーン・ツーリズム活動に貢献している。様々な角度から、自分にできることに精一杯取り組んでいるのである。愛南町ではこのようなスタイルを取っているからこそ、最高のおもてなしが生まれるのだと感じる。

このような、豊かな自然や温かい人情は愛南町の大きな魅力であり、大切な地域資源である。訪れる人を里帰りした家族のように迎えてくれる地元の人々の存在があるからこそ、愛南を訪れた人々はその地域の食事や農業に対する親近感をより深めることができる。そして、愛南町を第2のふるさとと呼べるようになるのである。

多くの恵まれた食材と地域の方々の人情とがセットになってこそ、愛南の魅力が引き出されており、「愛南町に帰ってこうわい」が湧き出てくる。このことは、愛媛全体にも共通すると言えるだろう。

### 3. 愛南町も頑張るとるよ

このような宝がある中で、グリーン・ツーリズム活動を行っている愛南町。たくさんの努力の中に見えてくる課題もある。今後、愛南町やこの活動をより広い地域に広めるためにはどうすればいいのだろうか。

私たちが感じたことは、町営と民間との温度差である。愛南町の行政は地域ブランド戦略をはじめ積極的な活動が目立ち、松山市内のデパートでの愛南町フェア、町内の道の駅の経営安定などが高く評価されているが、グリーン・ツーリズムに

対してはこれからだ。私たちが訪れた町営施設では町の経営に甘えてしまい、十分な経営努力がなされていないという印象を受けた。愛南町にある観光名所の中で、町営の施設が愛南町の良さをもっとアピールしていくことは大切なことである。愛南町の素晴らしさを存分に生かしていく為には、一人ひとりの意識を高め、民間団体と町営施設の経営者などが協力しあい、より良い町づくりをしていくことは、町のためにすべき重要なことだと私たちは考える。

また愛南町は、行ってからこそ良さの分かる、言い換えれば行かなくては良さの分からない場所でもある。今年の4月に7戸の農家民宿が一斉オープンして以来、8月末の時点での利用者は7戸合わせて10組であった。これは当初の見込みの2分の1という、予想以上に悪い結果であった。しかし、今後の活動いかんによってはこの状況を改善することも可能であると考えます。まず、愛南町、グリーン・ツーリズムをアピールし、より多くの人に知ってもらうことから始めるべきであろう。デパートや街中での特産品販売や、街頭・広告などによるPR活動などをもっと積極的に行い、愛南町を知ってもらうことで、愛南町に対する親近感を深めてもらうことも大切である。

愛南町の取り組みを広く知ってもらう為の努力を続けることにより、少しずつではあっても、愛南町を訪れる人が増え、その人々がリピーターとなり、それぞれがまた愛南町をアピールすることで、交流人口も増えるであろう。そこから都市と農村が繋がり、お互いが元気になっていくのではないだろうか。

### 4. サポーターとして

私たちは、農家民宿での宿泊体験をきっかけに、「愛南町グリーン・ツーリズム応援サポーター」となった。学業をしながらサポーターとしての活動を中心にして、日々の生活を送ることは難しい。しかし、愛南町に関わるイベントが松山で催される際、会場に足を運び、ピラ配りを手伝う

など些細なことでも私たちのできることをすることが愛南へのサポートになると思う。

サポーターとなって感じたことは、愛南町の自然や人だけでなく、私たちサポーターも含む愛南につながる地域外の人々すべてもまた愛南の「宝」の一部であると言えるのではないかということである。直接、愛南町を目に見える形でよくすることはできなくても、愛南町を大事に思う心さえあれば、それが愛南の活力となりうるのである。サポーター制度の利点は、なにも愛南町だけにあるのではない。松山など都市部にいながら、愛南町とどこかでつながっているということにより、サポーターである私たち自身も何かしらの原動力を得ている。このようにサポーター制度は双方向の利益となっている。

都市住民と農村住民が様々な形で協力することにより地域全体の覇気も自ずと上がっていく。つまり、グリーン・ツーリズムにおける都市と農村の一体感、そして農村に眠っている風土的な「宝」を利用して、愛媛全体の新たな活力を生み出せるのである。